

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
金山さくらんぼ教室		令和7年 3月 17日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		・1人ひとりの様子を見てスペースを区切る等、環境設定を工夫している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		・子どもの人数や様子に合わせた配置で行っている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		・子どもの様子に合わせて、掲示物を外したり、行動を細かく分けて一つひとつ写真や絵カードで知らせたりしている。また、片付ける場所も分かりやすいように写真を貼っている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・指導中の換気や指導後に片付け、消毒等を行ない清潔を保っている。 ・子どもに合わせて玩具を用意した環境設定をしている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		・ブレイルームと指導室があり、必要に応じて分けて使用できる工夫をしている。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		・職員で話し合いながら振り返ったり、目標を検討したりしている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・評価の結果を職員で確認をし、検討してから保護者に公表、配布している。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・特別な時間を作らなくても普段の会話の中でも意見交流等のやり取りができています。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		・評価の内容について改善できるように心がけている。	・園全体（園と支援センター等）の第三者に評価を行ってもらっている。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・研修の案内がきた時にすぐに知らせてもらい、参加できるように時間を作っている。 ・公開療育を行い、勉強会を行っている。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		・児童発達支援ガイドラインに沿い、支援プログラムを作成した。 ・ホームページに支援プログラムを公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		・定期的に行う面談等で保護者や子どもの困りや思いを聞き、できる支援や手当を考え作成している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		・計画案を職員で検討し、共通理解して作成している。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		・個別のファイルの中に計画表が入れてあり、いつでも確認や振り返りができるようにしてある。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		・アセスメントを用いて、子どもの適応行動の状況を把握している。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		・児童発達支援ガイドラインに沿って、一人ひとりに合った支援内容を考えている。 ・支援内容の細かいチェックリストを作り、確認できるようにしている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		・意見を出し合いながら一人ひとりに合ったプログラムを立案している。	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		・同じプログラムを繰り返したほうが良い子もいるが、少しずつ変化をつけ毎回新鮮な気持ちで取り組めるようにしている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		・個々の成長に合わせて、個別に対応、集団活動を取り入れている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		・指導前にねらいや内容を確認するようにしている。 ・指導内容に合わせて、役割分担を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		・子どもの姿を振り返り、気づいた点や課題等を話し、共通理解している。	・時間の都合で十分にできない時は空いている時間の使い方を考えたい。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		・読み返した時に成長した姿や課題となる点が分かりやすいように記入している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		・定期的に行っている。 ・子どもの様子から必要に応じて見直しを行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		・児童発達支援管理責任者が参加し、情報の共有をしている。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		・保健師、小学校、支援センター、こども園等が参加する子育て係会という会議を行っている。 ・療育システムにて医療関係者と連携を図っている。 ・乳幼児健診に出向き、情報共有している。 ・教育支援委員会に参加している。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		・こども園に併設しているため、園の様子を見学したり、担任や支援員、園の保育士に療育の様子を見学してもらったりして、共通意識で関われるようにしている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		・こども園やさくらんぼ教室の見学をしてもらうことや保護者と学校訪問をし情報共有を行っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外泊研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。			・地域に児童発達支援センターはないが、こども家庭センターや学校教育課の心理士からの助言を受け、より良い支援ができるようにしている。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		・こども園と併設しているため、常に連携ができています。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		・連絡帳や送迎時に子どもの様子や支援内容を細かく伝えている。 ・必要に応じて面談を行い、様子を共有している。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		・おたよりで紹介する等、情報提供を行っている。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		・入室時の面談時に丁寧に説明している。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		・面談などで作成前に保護者の思いをお聞きできる時間を十分に取っている。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		・保護者と一緒に内容を読んで確認し、具体例を出しながら丁寧に説明をしている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		・定期的に面談の時間を作り、悩みや困りに対して対応している。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		・保護者の集う場として「かたつむりの会」のご案内をお知らせしている。 ・きょうだい同士の交流は行っていないがきょうだいも参加できる会を設けている。	・保護者同士が集まり、子育てについての悩みなどを気軽に話せる場（座談会）を設けるようにしていく。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		・すぐに対応できる時はその時に行ったり、時間を空けないように日程を調整したりして対応している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		・毎月おたよりを発行し、様々な情報を発信できるようにしている。 ・行事については別の案内を発行し、詳しくお知らせしている。 ・ホームページにアンケートや行事計画を載せている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		・しっかりと施錠し、保管している。 ・個人情報の取り扱いには十分に気をつけている。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		・個別に詳細を丁寧に伝えている。 ・文章には必要に応じてルビを振ったり、ひらがなでお伝えしたりしている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		・地域の場に出向いたり、地域の方を講師に招いたりして、さくらんぼのつどいを行っている。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		・こども園と併設のため、園と一緒に訓練している。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		・こども園と併設のため、園と一緒に訓練している。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		・入室面談時での確認や保護者からの連絡があった時は職員全員が状況を把握できるようにしている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		・こども園と連携して、アレルギー対応を共有している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		・安全計画を作成し、さくらんぼ教室に掲示している。 ・訓練をこども園と連携して行っている。 ・遊具の安全点検を定期的に行っている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		・安全計画をさくらんぼ教室に掲示している。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		・起きた時は原因を明確にし、次に起こさないように共通理解をしている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		・虐待防止研修を受けている。 ・職員のセルフチェックリストや虐待早期発見チェックリストを活用している。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		・現在身体拘束を行う事案はないが、身体拘束マニュアルを策定している。必要になった場合は十分に検討し、保護者の同意確認、計画の記載を行う。	